

カルロ・デル・ブラーヴォの著作においてはミケランジェロ作品にちりばめられた美とその意味が全ルネサンスの芸術と生への思いを象徴している。

カルロ・ファルチャーニ (フィレンツェ美術アカデミー教授)

ミケランジェロ研究

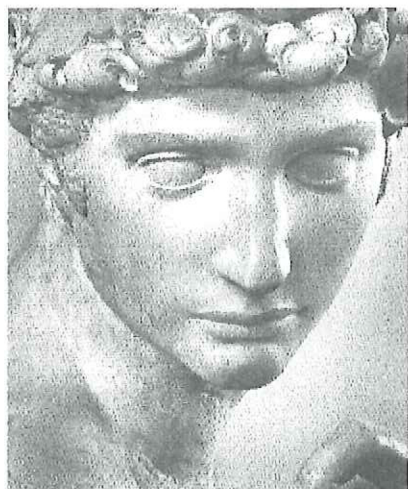
A5 判カバー装 264 ページ

定価 2,916 円 (本体 2,700 円 + 税)

ISBN978-4-8055-0856-5 C3070 ¥2700E

カルロ・デル・ブラーヴォ

甲斐 教行 (茨城大学教授) 訳



ミケランジェロ《勝利》(部分)、
フィレンツェ、パラッツォ・ヴェッキオ

目次

緒言 (甲斐教行)

《トンド・ドーニ》とその額縁

システーナ天井画小論

想像力の諸段階 ユリウス二世墓碑をめぐる対話

ミケランジェロの《二人の公爵》

《審判図》をめぐる

《ロンダニーニのピエタ》の諸案について

ラファエッロ研究

解題 (甲斐教行)

「包括的図像解釈」の方法論を二大巨匠ミケランジェロとラファエッロに適用した本書は、われわれの図像上の「常識」が立証された史実からほど遠いものであることを思い出させる驚くべき成果である。デル・ブラーヴォが描き出す「創作的解釈」それ自体がひとつの物語であり、冒険であると言えるよう。

著者紹介

カルロ・デル・ブラーヴォ (1935～2017年)

フィレンツェ大学文哲学部でロベルト・ロンギに師事し、1959年同学部卒業。フィレンツェ大学文哲学部教授 (1981～2008年)、のち名誉教授。15世紀から今世紀に至る近世イタリア美術に独自の解釈を展開。著書に『リベラーレ・ダ・ヴェローナ』(イル・フィオーリーノ社、1967年)、『芸術は答える』(サンソーニ社、1985年)、『美と思索』(レ・レッテレ社、1997年) ほか。

訳者紹介

甲斐 教行 (かい・のりゆき)

1960年、東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程単位取得済み満期退学。博士(文学)。現在、茨城大学教育学部教授。著訳書に『イタリアのマニエリスム画集』(トレヴィル)、『ラファエッロ―作品と時代を読む』(共著、河出書房新社)、チェーザレ・セグレ『聖バルトロマイの皮―美術における言説と時間』(ありな書房)、ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』(共監訳、中央公論美術出版)、デル・ブラーヴォ『美の顕現―ルネサンスの美術と思想』(中央公論美術出版) ほか。